

空間デザイン通信

2025
VOL.31
SUMMER

感動と発見の1日！大阪関西万博レポート！

ついに行ってきました、大阪・関西万博！実は、準備段階から一苦労。前売り券をぎりぎり確保し、パスポート登録やオンライン予約に四苦八苦しながら、1週間前の抽選で「日本館」に当選！3日前の追加抽選は仕事で手が回らず…あとは現地での運に任せることに。

当日は朝8時に東ゲート集合。すでに多くの人が並んでおり、熱気が漂っていました。いよいよ入場！最初に見えてきたのは「フランス

館」。迷わず並んでみると…スムーズに入場！「クロワッサンの誘惑には負けない。今回は“知らない料理にチャレンジする！”というルールを掲げ、まずは展示を堪能。ルイ・ヴィトンやDiorのブースには、フランス文化と美意識が凝縮されていました。

ノーブランで挑んだ万博ですが、いろいろまわって楽しめました。なんとこの日だけで合計26,000歩！心地よい疲労

感とともに、充実した一日となりました。是非皆さんも行ってみたいと思います！

翌日は、1970年に開かれた大阪万博の跡地「万博記念公園」へも足を延ばし、新しい万博とは異なる、懐かしさも味わい深い空気を堪能。

太陽の塔をはじめ、時代を超えた魅力に触れられるスポットです。万博を訪れた際は、ぜひこちらにも立ち寄ってみてください。



(相原)

万博記念公園で、50年以上前の万博を感じました！

印象的だったパビリオンの紹介！

事前にあまり情報収集せずに、万博に臨みましたが、全部で17ものパビリオンを回ることができました！個人的にとりわけ印象に残ったパビリオンをいくつか紹介します。

◎今回巡った17のパビリオン(訪問順)

- | | | |
|---------------------|------------|------------|
| ① フランス館 | ⑥ マルタ館 | ⑫ サウジアラビア館 |
| ② マレーシア館 | ⑦ ベトナム館 | ⑬ シンガポール館 |
| ③ 日本赤十字館 | ⑧ セネガル館 | ⑭ オマーン館 |
| ④ ポルトガル館 | ⑨ コモンズ B | ⑮ コロンビア館 |
| ⑤ ノルディック・サークル (北欧館) | ⑩ オーストラリア館 | ⑯ 日本館 |
| | ⑪ スペイン館 | ⑰ クウェート館 |

フランス館

さすがフランス！華やかで洗練された空間が広がります。文化と技術が融合し、ラグジュアリーな雰囲気包まれました。



ルイ・ヴィトンエリア



ディオールエリア

シンガポール館

会場でもひと際目立つ真っ赤な球体のパビリオン。テーマは「ゆめ・つなぐ・みらい」。自分の手に夢を書き、その文字が宙に舞い上がって球体の上部に届く演出。夢を現実に変える過程を体験し、未来を共有する感動体験です。



球体は約1万7千枚のリサイクルアルミニウムの赤いディスクで覆われています。

マレーシア館

洗練された街並みと、進化するテクノロジーの融合が印象的な空間。未来を見据えたスマートシティや環境への取り組みが紹介され、マレーシアの今とこれからが伝わってきました。ランチは「ナシラマ」を選び、未知のスパイスに大満足！多民族文化の豊かさを五感で体感！



マレーシアの料理がずらりと並ぶ展示でお腹が空きます。

日本館

今回のハイライト！「いのちの未来」がテーマの展示は、まるで劇場のような空間構成で、一步踏み入れると圧倒されました。さすがホスト国、日本の技術と感性が詰まった体験でした。



ハローキティが「藻」に扮し、藻の無限の可能性を伝えます。

コロンビア館

蝶が導いてくれる南米らしい陽気な雰囲気とエネルギーギッシュな展示で、観光地域を巡りながら「五感で体験する」展示となっています。文化の多様性に触れる時間に。



クウェート館

砂漠の国が見せる未来像。豊富な資源と水への取り組み、未来都市の構想が興味深く、映像演出も印象的でした。



砂漠の砂に触ったり、夜空を眺めたり…五感で楽しむパビリオンでした。

万博のオープニングを飾る「1万人の第九 EXPO2025」に参加！

妻から、「あなたも一緒に出ない？一生の記念になるかも？」という誘いがあり、ウェブサイトを見ると「1万人の第九 EXPO2025～その感動、だれよりも先に！～1万人の第九は、大阪・関西万博のオープニングを飾ります。」とありました。以前より家族が年末の「1万人の第九」に参加



支給された「1万人の第九」オリジナルポンチョを纏い万博会場に向かいます！

しており知ってはいたのですが、まさか関西万博のオープニングを飾るとは知りませんでした。これは参加するしかない！！

早速、グループ参加申込をすると、ラッキーにも当選！！無事参加することとなりました。練習会場での練習を経て、いよいよ4月6日のテストラン早朝6時30分初めて万博会場に足を踏み入れました。

話題には聞いていましたが、木造の大屋根リングは視覚的にも迫力がありました。高層ビルを見慣れている私達でも、そう思うのですから、古代に出雲大社の高層本殿を見た人はさぞ驚いたのだらうなと思ったりしました。

リングの上に行くと、視線が俯瞰的になり、会場の全体の様子が整理されます。またリング上は思ったより広く心地よい空間が広がっていました。

4月13日本番当日は、あいにくの雨天の中スタンバイしていましたが、演奏が始まる前に奇跡的に雨はやみ、1万人の合唱団の歌声が会場に響き渡りました。そのような体験に参加することは、なかなかできないことだと思います。

何事もリアルな体験は大切です。皆様も木造の大規模建造物、大屋根リングを体験に行かれてはいかがでしょうか？



(阿部)



圧巻の演奏の様子はアーカイブで視聴可能です。
<https://www.mbs.jp/daiku-expo/>



設計

池田市の児童会棟が無事竣工！ 中大規模木造建築を初めて手がけました！

今年3月、池田市様からの委託で始まった児童会棟（木造）の新築工事が無事竣工しました。弊社が設計から携わった初めての中大規模木造の新築工事で、大変勉強になった業務となりました。

設計概要は、木造2階建てのレシプロ梁を用いた在来軸組み構造で、延べ400㎡程度、切妻屋根をベースに一部を下り棟にした構造とし、外装は妻面をよろい張り、平面を左官仕上げ、屋根を金属縦平葺としています。



互いに支持し合うことでバランスを保つレシプロ梁を用い、柱と梁を組み合わせることで建物を支える構造です。

プランとしては平面上の中心を点対象とし、中央廊下方式とすることでコンパクトなデザインとし、主要な居室の内装は床をフローリング、壁を羽目板張・塗装仕上げ、天井を梁現し+岩綿吸音板としています。

業務の経緯は、池田市内にある2つの小学校の校舎内で運営している児童会が本年からの生徒増数に伴い、校舎内で受入れ増員できないことが見込まれたことから、同敷地内で新たに児童会の施設を新設することに至りました。

今回の業務では設計工期6ヶ月、工事工期9ヶ月を2施設実施するという非常にタイトな状況で、初めての中大規模木造の新築工事ということもあり、経験のある内海彩・長谷川龍友建築設計事務所様にご協力いただきました。

工事の際は受注した各施工業者様も初めての試みであることが多く、さらに特殊な構造であることから計画から非常に難航し、工期が逼迫し、監理と現場がより一体に



梁を見せる天井にすることで開放感が上がり、室内全体に調和が生まれています。また、空気の流れがよくなるメリットがあります。

なって取り組むに至りました。おかげ様で通常の監理では身につかないほど、より多く中大規模木造について理解を深められたと感じています。



(瀬戸)

設計

設計工事プラス職場のウェルネスも デザインした新社屋が無事竣工しました！

弊社が設計した、某社の新社屋が竣工を迎えました。そのお引越しの最中、ご厚意により内部を見学させていただきました。

エントランスでは、新たにリニューアルされたロゴマークが堂々と掲げられ、その前にはお祝いの花々がずらり。執務フロアには、個人デスクに加えて、スタンディングデスクや集中ブースなどが導入され、多様な働き方に対応するレイアウトとなっています。



5階建ての新社屋外観



最上階のカフェスペース

最上階には広々としたカフェスペースも設けられ、リフレッシュや交流の場として活用されるそうです。

見学中も着々と荷物の搬入が進み、プランとしていた内部が企業カラーに染まってく様子に、こちらも期待が高まりました。

また、竣工にあわせて、社屋案内パンフレットの制作も弊社でお手伝いさせていただくことになりました。企業の魅力が伝わるよう、心を込めて取り組みたいと思います。

この度のプロジェクトにおいて、デザイン監修及び工事監理にご協力いただきました岩田章吾建築設計事務所様、施工をご担当いただきました新井組様には、魅力的な空間づくりにご尽力を賜り、心より感謝申し上げます。



ミーティングルーム



執務室

げます。

そして、この企業には Vol.28 でご紹介した「職場環境が与えるウェルネス調査」についても引き続きご協力いただきます。社屋への移転による環境の変化が、社員の働きやすさや満足度にどのような影響をもたらすのか…今後の調査結果にぜひご注目ください！



(八田)

COLUMN
第1回

高経年マンションの未来について考える

スラム化する高経年マンション



自分の住んでいるマンションに、あとどれくらい住めるのか気になる方は多いと思います。今回から3回にわたって、マンションの老朽化について考えていきます。

全国に分譲マンションの戸数は約700万戸とされ国民の約1割が居住するとされています。築40年を超える分譲マンションは80万戸を超え10年後には200万戸に達するとされています。

これらの多くは居住者の高齢化が進み管理不全マンションが社会問題とし

て顕在化してきました。高齢化に伴いタイヤ層が区分所有者の中心となっていることから、建物の維持管理に必要な投資意欲の減退と維持に必要な活動(管理組合運営)の減退などハード(建物)およびソフト(維持管理)面で管理不全予備軍が増えています。

一方で新築分譲マンションが供給されていることから、社会問題となっている戸建て住宅の「空き家問題」と同様に分譲マンションの「空き家問題」が管理不全に拍車をかけることになります。

2025年中には区分所有法の改正が予定されています。これは、管理不全マンション問題を見据えマンションの再生を促進しやすくするための第一歩ですが運用面でのハードルは高い内容です。

マンションの再生方法の3つの柱として「建て替え」、「敷地売却」、「長寿命化」があげられますが「建て替え」、「敷地売却」は関わる事業者と区

高経年マンションの3つの再生法

建て替え

敷地売却

長寿命化

分所有者の双方にメリットがある立地は限られているため全国的にもほとんど実施されていません。「長寿命化」についても高経年マンションの多くが抱える「耐震化」についても高額な費用が必要となることから検討すらされていません。新築分譲マンションが現在も継続的に供給されています。社会が求める要求性能を満たさない高経年マンションが近い将来、市場の需要から取り残されることは必須であり結果として「管理不全」=「スラム化」は容易に想像できマンションが多く立地する都市部では近い将来において大きな社会課題となります。私たち建築関係者だけで解決できる課題ではなく、領域を超えた連携による課題決が必要だと考えております。



(桑原)



高経年のマンションは、設備や水道管などの不具合があちこちで発生し、修繕費が上がり、資産価値が下がり、住民の引っ越しや売却が発生し、空室が増え、管理ができなくなりスラム化が進むと考えられています。

模
擬
訓
練

豊島区被災建築物応急危険度判定模擬訓練に参加

被災建築物応急危険度判定は、地震により被災した建築物について、その後の余震等による倒壊の危険性ならびに建築物の部分等の落下あるいは転倒の危険性をできる限り速やかに判定し、その結果に基づいて恒久的復旧までの間における被災建築物の使用にあたっての危険性を情報提供することにより、被災後の人命に係わる二次的災害を防止することを目的としています。

今回の豊島区での模擬訓練では、判定に関わる体制等を学びながら、実際の木造建築物を対象に、二人一組で意見を交わしつつ判定を行い、調査表の記入やステッカーの貼付までを体験しました。実地での訓練により、調査・判定の具体的な流れを把握し、方法を再確認できたことは非常に有意義でした。

阪神・淡路大震災から30年を迎える今、改めて防災への備えの重要性を実感しました。



(石橋)



判定ステッカーは、調査済(緑)、要注意(黄)、危険(赤)の3種類。建物の判定後に貼り付けます。

表
彰

東京都中小企業同友会の10年継続会員として表彰

2025年5月、東京都中小企業同友会の定時総会が開催され、その中で「10年継続会員表彰」が行われました。弊社代表の阿部も表彰対象となり、当日出席した15名の中から代表

としてスピーチを行いました。スピーチでは、大阪から東京へ拠点を移し同友会に入会した当初の思い出や、コロナ禍を含むこの10年のさまざまな経験に触れながら、活動の機会を与えてくれた同友会への感謝を述べました。また、今後も継続的に学びと実践の場として関わっていく意欲が語られました。

阿部のこのような姿勢は、社外においても積極的に活動し、信頼を築いていることの証だと感じました。今後もその取り組みを応援していきたいと思ひます。



定時総会は、アルカディア市ヶ谷にて行われました。



(相原)

セミナー

脱炭素社会実現に向けてニーズが高まる 中大規模木造建築の防火・耐火設計について学びました

桜設計集団の安井昇氏による中大規模木造建築セミナーに参加し、防火・耐火設計の重要性を学びました。

セミナーは新木場にある「木材会館」で行われ、最初に施設見学をしました。建物の西面はほとんどがガラス窓となっていたが、各階にテラスが設けられており、直射日光は遮りながらも明るい空間でした。壁や天井などの



新木場の木材会館

の内装材にも多くの木材が使用されており、木の香りも感じることが出来ました。

耐火・準耐火建築物に木造を用いるのは法的にも難しく、耐火被

覆で構造部材を覆ってしまうケースがほとんどでした。しかし、「燃えしる設計」という設計手法であれば「準耐火構造・3階建て以下・1500㎡以下」であれば室内の木質化が可能であるということを学びました。

燃えしる設計とは構造計算で求めた柱や梁の必要な断面寸法に、火災時に炭化する厚み（燃えしる）を加えて部材を太くする手法です。最近ではこの手法を活用して保育園や庁舎などの施設が建てられているようです。木造建築の設計にあたっては、内装にも木の温もりが感じられるよう、積極的に取り入れていきたいです。



木材を使った安らぎの空間作りを追求して2009年に建てられた木材会館。建物のあらゆる空間に木材を使用して最新の建築技術を知ることができます。



(榎垣)

健康経営

“朝の3分”が会社を変える？毎朝のラジオ体操と健康経営 2025年健康経営優良法人に認定されました

弊社は「健康経営優良法人」の認定取得を目指し、色々な取り組みをしています。その中でも、既に日課となっている活動の一つとして「毎朝のラジオ体操」があります。朝の数分のラジオ体操で体を動かす。これが実は想像以上に肩こり、腰痛の改善、血行促進、気持ちのリフレッシュにつながります。たった3分でも、しっかりやれば

全身がほぐれて、頭もスッキリします。

更に！「みんなで同じ時間に動くこと」で、チームの一体感も高まります！！社員の健康は勿論、職場の空

気がちょっと明るくなる。ラジオ体操は、まさに健康経営の入口と言えます。

健康経営とは、会社が「社員の健康」を経営の大事な資産として考え、積極的にサポートしていく取り組みです。その一環として私たちは、

- ・健康診断の徹底及び再検査の促進
- ・ストレスチェックや相談体制の整備
- ・有給取得・残業抑制の促進
- ・食事や運動コラムの紹介及び、社内イベントの企画などを少しずつ整えてきました。

こうした取り組みの結果、今回の健康経営優良法人取得となりました。

健康と聞くと何から始めて良いかわからない方も多くいるかと思いますが、まずは、ラジオ体操など小さな習慣から、皆さんも取り組んではいかがでしょうか？



最近では、ラジオ体操だけでなく、肩や首のストレッチも取り入れていきます。肩こりも軽くなり、デスクワークも快適です！

編集後記

年齢を重ねるにつれ、新しい挑戦は、少しずつハードルが高くなってきます。でも、万博のような非日常空間では、知らない料理や文化にも自然とチャレンジしてみたいから不思議です。「ちょっと試してみようかな」と思える気持ちは、きっと日常の中にもあるはず。仕事や子育ての中にも、そんな小さな“万博”のようなきっかけを取り入れていきたいなと思いました。



(都澤)

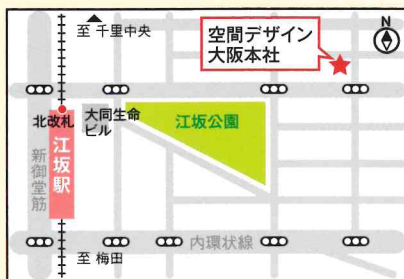


(永田)

空間デザイン通信 31号 2025年6月発行

大阪本社

〒564-0062
大阪府吹田市垂水町 3-24-1
シンプレックス江坂 402
TEL.06-6192-8751



東京事務所

〒170-0005
東京都豊島区南大塚 3-12-9
喜多ビル5階
TEL.03-5980-8535

